

財団だより

第126号  
2010.6

# 多摩川



ローソク用のカンテラ  
/ 府中市立郷土館蔵



## 調布堰と黒松の林

Photo & Text  
遠藤 穎彦 (Hidehiko Endo)  
渋谷区在住

東急東横線で多摩川に差し掛かると右手(上流)の直ぐ下を堰が通り過ぎて行く。多摩川の駅を出てあまりに直ぐだったので、多摩川駅から歩いた方が良かったのか?と後悔しながら新丸子で下車、駅から徒歩10分位で川岸へ。そこに広がる景色は多摩川台公園から田園調布に続く台地の河岸段丘に黒松の林が繁り、これをバックに多摩川・調布堰が作るおだやかな水面に映える姿は一枚の絵を思わせる美しさです。ここで初めて右岸に直接来て良かったと安堵。1936年(昭和11年)に国が飲料水の供給の為に造ったものを現在は工業用水に利用され、防潮堰の役割も果たしハゼ等が棲んでいるので休日など多くの釣り人が糸をたらし、時を過ごしている風情もまたのどかなものでした。

## Contents 目次

巻頭言	2
特別寄稿 廃棄物処分場に復活した自然	3
「あきる野市郷土の恵みの森構想」と「森林レンジャーあきる野」	4
野川の桜並木	5
魚の顔	6
多摩川の最上流部へ	7
インフォメ・多摩川	8
財団からのお知らせ	10

## 巻頭言

### 「水の国 日本」



俳 優  
地井 武男

近くに住んでいるので、多摩川には良く出かけます。また、最近では「ちい散歩」のロケで流域の多摩川に出向く機会も多く、そこで写真を撮っている人、水質を調査している人、また、河川敷で楽しんでいる人等、多摩川の情報は知っているつもりでした。しかし、そんな折、多摩川の源流から河口までを紹介した絵本「日本の川 たまがわ」という鳥瞰絵地図に出会ったのです。源流にはじまった小さい水流が、長い流れのあと大きなうねりとなって東京湾に飲み込まれていく姿を俯瞰の絵地図として表されている地図です。この地図に出会って、自分の多摩川に対する見方が変わった様な気がします。今から45年程前、まだ俳優修行中の頃、私は発声練習をかねて大きな声を出すための場所として良く多摩川の河川敷に立ちました。その頃、多摩川は、水の汚れがひどく悪臭が鼻をつく事が良くあり、あまり川に近づきたくない状態でした。そんな中で良く大声を出していたことを思い出します。それが今では、二子玉川付近でも岩魚やヤマメが獲れるという川になったそうです。

水もきれいになりいろいろな場所も整備され、素晴らしい景観の河川になってきました。今や、都会に住む人々の大切な安らぎの場となっています。これも関係された皆様の少しずつの長年の努力の結果だと思います。その一つの取組みとして、「おさかなポスト」なども功を奏していると思います。こうした人の努力によっても浄化され、きれいな川に戻るという事を考えると、川の将来のために、

今我々がやらなくてはならない事が沢山あるのではないのでしょうか。

環境問題は総体的に捉えるべきなのでしょう。川だけを管理すれば良いのではなく、それを取巻く森がきちんと管理整備されてこそ、はじめて水もきれいになり川が生まれ変わる。その全体の在り方をその俯瞰の目でみて、立て直していく必要があるのではないのでしょうか。豊かな森から生まれた清らかな水。これが流れとなって川になる。……こんな様子は昔から、この日本にはあったのでしょうか。

先日、アフリカの内陸部にある国に、日本人の二人の職人が井戸掘りとかまど造りに行き、現地で活躍する姿を放映した「THE 仕事人バンク」という番組に出演した折、アフリカの子供達が虫が死んでいるような汚れた溜まり水を生活用水としてドクドク飲んでいる姿を見て、少し気持ち悪くなりショックを受けました。我々は子供の頃から水に困ったことはほとんど無かったし、現在でも安心して飲める水がいつでも水道の蛇口をひねれば勢い良く溢れて出てきます。いつでも清潔で豊かな水の恩恵の中にいられました。世界中で、こんな国はそうないのではないのでしょうか。我々はそんな恩恵を忘れてしまっているのではないのでしょうか。この頃、こんな私でも溢れるように勢い良く流れる清らかな水の流れる河川に立つと、あーもったいないなー、堰を止めて水に困っている国に提供出来ないものかと思うことがあります。

次の時代は「水の時代」とも言われています。今まさに、我々は「水の国 日本」というタイトルで豊富な水資源の国であることを全世界にアピールすべきではないかと思います。その意味でも、今まで以上に「豊かな清らかな水」のために、国全体の環境問題を踏まえて俯瞰の目で見直し、豊かな森づくりから豊かな川づくりへ、そしてそれは豊かな海づくりに繋げていくために我々一人一人が考えていかなくてはならないのではないのでしょうか。

## 特別寄稿

### 廃棄物処分場に復活した自然



東京たま広域資源循環組合  
参事（環境課長）

三田村 浩昭

谷戸沢処分場は、東京都日の出町にあり、用地面積が約45ha（東京ド・ム約10個分）あります。そのうち約30haの森林を伐採し、多摩25市1町のごみ最終処分場として造成しました。ここには、昭和59年から平成10年までの25年間、260万m<sup>3</sup>（東京ド・ム約2杯分）ほどの一般廃棄物が埋め立てられ、400万人の生活を支えてきました。

埋め立てが終了して以降、私たちは、6.4ヘクタールの部分をピオトープゾーンとし、池の整備をした以外、基本的に自然の成り行きに任せてきました。自然回復とは、人為的に何かをすることではなく、自然の営みにゆだねるという考え方でやってきました。

その結果、埋め立て終了から10年以上経ち、ピオトープゾーンは都内屈指のススキ群落となり、秋になると



ススキ

綺麗な枯れ尾花がみられるようになりました。このススキ群落は、植えたものではなく自然が勝手にもどってきてくれたものです。そして、周辺の森に棲む生き物や草原を好む新たな生きものたちが、処分場へやってくるようになりました。ここでは、東京都の絶滅危惧種であるカヤネズミが棲息し、球巣などをみることができます。また、このススキ草原では、秋の七草のうち、オミナエ



カヤネズミ球巣

シ、クズ、キキョウ、マルバハギ、カワラナデシコ、ススキの6種類の植物をみることができます。



カイツブリ

清流復活用貯水池などの水辺では、コガモやカイツブリなどの水鳥なども訪れるようになりました。清流復活用調整池は、処分場周囲から湧出する沢水を集め、貯留している池で、おもに冬季の降水量が少ない時期に安定した水量を下流の谷戸川に供給することによりゲンジボタルの棲息環境の安定化などに役立っています。池には浮島が設置されていて、水鳥が羽を休めたり、子育てをしたりしています。

最近の話題を一つ紹介します。処分場内には、日の出町の天然記念物トウキョウサンショウウオの産卵場所となっている水



トウキョウサンショウウオ

辺があります。この水辺では、昭和57年から現在まで、毎年、産卵状況の調査を続けてきました。その推移を見ると、年ごとの増減はあるものの、毎年産卵が確認されてきました。しかしながら、最近、産卵が激減するという状況がありました。動物による食害の可能性が高かったため、産卵場所にカメラを設置したところ、特定外来種であるアライグマによる捕食が確認されました。このため、卵を一時的に保護するなどの対策を行い、今年は順調な産卵が行われました。

生活のためとはいえ、豊かな森林を伐採して作った廃棄物処分場。その跡地で、昔の森林とは違う姿で自然が回復しています。そんな姿を見ると、今後も環境の保全に力をいれることが、少しでも大自然と地元日の出町の皆さまへの恩返しになればと感じています。廃棄物処分場として管理しているため、一般の方には中をご覧いただきにくいですが、夏休みの時期には見学会を実施しておりますので、是非一度ご来場下さい。

処分場管理センター 042-597-7881  
<http://www.tama-junkankumiai.com/>

## 多摩川に学ぶ

### 「あきる野市郷土の恵みの森構想」 と「森林レンジャーあきる野」



あきる野市役所  
環境経済部 環境の森推進室長  
吉澤 桂一

#### あきる野市郷土の恵みの森構想

あきる野市では、市域の約6割を占める森林をみんなの共通の財産と位置づけ、その財産を有効活用するための方策を示した「郷土の恵みの森構想」を策定しました。構想では10年後、50年後、100年後の将来を見据え、市域の森を7地区に分け、森の特徴に応じて、清流の森、経済の森、郷土教育の森、歴史文化の森、健康の森、観光の森の6つの類型に分けて森林環境の保全再生と地域活性化の両立を図りつつ、市民の心の中に「自然愛」や「郷土愛」を育み、森づくりから「環境都市 あきる野」の実現を目指す道標を示しています。

構想策定に当たっては、各地区の森を踏査するとともに、交流会などを地区ごとに開催し、そこで語られた皆さんの森への想いや夢を核として、森に関わる様々な方たちと一緒に創り上げました。

昨年度、本構想のパイロット事業として「菅生若宮子ども体験の森」で開催した里山体験イベントでは、周辺の町内会等による実行委員会を組織し、市内の小学生の親子を対象に、夏と冬に里山管理や森の遊びなどを実施しました。また、3月28日には戸倉地区において地域との協働により落葉樹の植樹体験を実施しました。さらに5月8日に五日市憲法草案が発見された深沢地区において、郷土の恵みの森づくりオープニングイベントをJR東日本八王子支社、地元自治会、観光協会、青年会議所との協働で開催しました。

#### 森林レンジャーあきる野

構想実現に向けて、専門的な知識と経験、市内の山間部を踏査できる体力と知り得た情報を発信するための情報処理能力を有するとともに、地域との調整能力やあきる野の森づくりに熱意を持つ人材を発掘し、森林レンジャーあきる野として配置することを決定しま

した。全国から70名以上の応募があり、国内外での経験や知識を豊富に持つ、多彩な顔ぶれの4名を5月1日から採用しました。



市町村レベルでは初の本格的なレンジャーの配置となります。先達として、国や都のレンジャー制度などがありますが、両者との大きな違いは、森林レンジャーあきる野の活動範囲は自然公園内に限らず、市内全域の森林とその周辺地域であり、地域との協働に主眼を置いていることです。市内には急峻な山間部からなだらかな丘陵まで多彩な森が存在しています。そして特に丘陵地帯には、いわゆる里地里山といわれるような生物多様性が非常に高い環境が多く含まれており、国も日本で培われてきた里山文化（自然共生型社会）をSATOYAMA イニシアティブとして、国際的に推進しています。



市内には秋川渓谷を始めとする大小の河川が、豊かな森林地帯を源として流れており、多様な生物を育むとともに、首都圏のみなさんの憩いの場となっています。

あきる野市が始めた4名のレンジャー制度は、大きな自然環境に対しては非常に小さな存在かもしれませんが、価値ある一歩となるよう地域との協働により、さまざまな活動に取組んでいく予定です。また、市職員ボランティアによるサポートレンジャーも同時に立ち上げました。あきる野の森の未来のため、どうか皆様からのご支援をよろしくお願いいたします。

# 多摩川散歩

## 野川の桜並木



市民の手による  
まちの資料情報館  
協力員  
調布市 郷土史家  
古橋 研一

身近な川を守り育てることは、その川の生い立ちを知る事も大切なのではないのでしょうか。

武蔵野台地を流れる野川は20.9kmの都市型河川です。源流の国分寺市から小金井市、三鷹市、調布市、狛江市、世田谷区を経て多摩川に合流しています。

### 東京オリンピックが野川の桜並木の親...

1961年(昭和36)10月紆余曲折の末、政府はオリンピック体育館と選手村を代々木のワシントン・ハイツに建設を閣議決定し、米軍の要求で移転費用80億円と米軍施設を旧調布飛行場の調布水耕農場跡に、通称関東村として新設する事になる。

東京オリンピック開催の三年前の事でした。



関東村に接する調布、府中、三鷹の三市は協議を重ねる中、府中市側の「日限が迫っているオリンピック開催に絡んでいる。予定通り開催できなければ、その誇りは地元三市にくる」発言で分かるように、移転反対の立場は取り難く、受け入れ条件の一つに、大雨の度に氾濫する野川の改修を入れたのです。

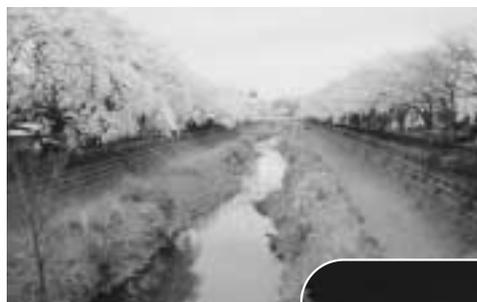
それも東京都建設局長は、予算を理由に「今のままでは20年位かかる」と、難色を示し、会談は暗礁に

乗り上げました。そこで、政府が政治的解決に乗り出します。野川を多摩川同様の一級河川に昇格させ、総額23億円を国と東京都が負担し、五ヵ年で工事をする事で決着します。まさにウルトラCでした。

### 調布市民の夢が400本の桜に...

調布市域5,100mの野川改修工事が完成したのは1967年(昭和42)の事でした。野川の堤は整備されましたが無味乾燥の風景で、地元有志が堤で花見がしたいとの夢から、翌年の春一名の市議を中心に「桜を植える会」が10名程で結成され、市の支援を得ず独自に取り組みました。会は川を管理している建設省に足を運び、堤から離して植える事を条件に、その年の秋に許可が下りました。

1969年(昭和44) 会として埼玉県安行の植木業者から400本のソメイヨシノの苗(一本130~140円)を購入、同年御塔橋から箕和田橋の両岸に人差し指程の桜を植え始めます。植樹にあたり一軒ごとに協力をお願いしながら植えたそうです。しかし、ツルハシとシャベルで一本ずつ植えるのは大変で、会員は一日で根をあげてしまい、大半は植木業者に依頼して400本の桜を植えました。



41年目の春も 一夜のライトアップで...

それから41年、幹の周囲は2mを越す

279本の桜が、毎年春には咲き、今年の4月6日には一夜だけライトアップされた野川の夜桜に多くの市民が楽しみました。

野川沿いにお住まいの三ッ木平八(75)さんは、「桜を植える会」最後の会員です。今もお元気で桜の話になると、目を細めて熱く語ってくれます。

それも、これも先人の夢と努力があってこそその夜桜なのです。その身近な歴史を大切に語り継げば、きっと野川の桜並木も大切にされる事でしょう。

(野川の桜並木の話は、調布市立図書館に冊子『調布の桜』としてあります。)

## 歴史 / 多摩川

### 多摩川の最上流部へ ～ 笠取山の歴史～



東京都水道局 水源管理事務所  
技術課企画調整担当係長

中村 幸一

はじめに

笠取山は多摩川の最上流部、山梨県と埼玉県の県境に位置する山で、標高は1,953 mです。多摩川は笠取山の直下にある水干<sup>みずひ</sup>を源流とし、138kmの道のりを



笠取山山頂を望む

を経て河口へ流れ出ます。笠取山の南側一帯の森林は、水をたくわえ、土砂の流出を防ぎ、水質の浄化を図ることなどを目的に、東京都水道局が直接所有、管理している水道水源林となっています。その歴史は古く、およそ100年前から管理を行っています。

ここでは、笠取山周辺の森林の歴史について説明します。

荒廃した森林

江戸時代、笠取山を含む多摩川上流域一帯の森林はおおむね徳川幕府の領地に属しており、地域の住民は生活に必要な林産物を収穫する権利を持ち、良好に管理されていました。また、幕府直轄の「お留（止）め山」（幕府や藩が住民の立ち入りを制限した保護林）も各所にありました。

明治時代に入ると、「山林原野官民有区分」により、この辺りの森林は官有地となり、その後、皇室の管理である御料林に編入されました。これにより、地域住



荒廃した笠取山付近（大正末期）

民は生活に必要な林産物を今までのように収穫することができなくなりました。これに住民が反発したことなどから、森林の荒廃が進行したのです。

東京都による管理の始まり

水源地の荒廃は、東京の水源確保の面で大きな問題でした。このため東京府は、東京帝国大学（現在の東京大学）教授の本田静六林学博士に多摩川上流域の調査を依頼しました。その調査結果は、「水源地の森林状態は甚だ危機にひんしており、その経営を怠れば東京市の飲料水はたちまち欠乏をきたす。多摩川水源地の森林を府または東京市で直接経営することが急務である。」というものでした。

これを受けて、東京府は府が自ら森林を経営することを決め、明治34年（1901年）に多摩川上流の御料林を譲り受けました。これが東京都による森林管理の始まりです。笠取山周辺の森林は、明治45年（1912年）に東京市が山梨県から譲り受けました。

森林の管理

現在、当局ではおよそ22,000ヘクタールの森林を管理しています。これは東京都23区の3分の1程度の面積になります。そして、笠取山周辺の森林は、カラマツを中心とした立派な森林となりました。下の写真は左下の写真と同じ場所から撮ったものです。100年前に全く木がなかったとは思えないほど、豊かな森林が広がっていることがおわかりになると思います。

多くの方々の知恵と努力によって見事によみがえった水源地の森林を、当局では「安全でおいしい水は豊かな森林から」という考えのもと、これからも適切な管理を続けていきます。



現在の笠取山付近

ようこそ水源地ふれあいのみちへ

笠取山や水干へ至るコースは、「水源地ふれあいのみち」として当局が整備した登山コースになっています。山を登るにつれて変化する森林の姿と源流部の清流を楽しむことができ、緑が深まるこれからの季節にはぴったりのコースです。これを機会に、森林の歴史を感じながら多摩川の源流を散策してみたいいかがでしょうか。



水源地ふれあいのみち（水干ゾーン）

## 歴史 / 多摩川

### 多摩川の最上流部へ ～ 笠取山の歴史～



東京都水道局 水源管理事務所  
技術課企画調整担当係長

中村 幸一

はじめに

笠取山は多摩川の最上流部、山梨県と埼玉県の県境に位置する山で、標高は1,953 mです。多摩川は笠取山の直下にある水干<sup>みずひ</sup>を源流とし、138kmの道のりを



笠取山山頂を望む

を経て河口へ流れ出ます。笠取山の南側一帯の森林は、水をたくわえ、土砂の流出を防ぎ、水質の浄化を図ることなどを目的に、東京都水道局が直接所有、管理している水道水源林となっています。その歴史は古く、およそ100年前から管理を行っています。

ここでは、笠取山周辺の森林の歴史について説明します。

荒廃した森林

江戸時代、笠取山を含む多摩川上流域一帯の森林はおおむね徳川幕府の領地に属しており、地域の住民は生活に必要な林産物を収穫する権利を持ち、良好に管理されていました。また、幕府直轄の「お留（止）め山」（幕府や藩が住民の立ち入りを制限した保護林）も各所にありました。

明治時代に入ると、「山林原野官民有区分」により、この辺りの森林は官有地となり、その後、皇室の管理である御料林に編入されました。これにより、地域住



荒廃した笠取山付近（大正末期）

民は生活に必要な林産物を今までのように収穫することができなくなりました。これに住民が反発したことなどから、森林の荒廃が進行したのです。

東京都による管理の始まり

水源地の荒廃は、東京の水源地確保の面で大きな問題でした。このため東京府は、東京帝国大学（現在の東京大学）教授の本田静六林学博士に多摩川上流域の調査を依頼しました。その調査結果は、「水源地の森林状態は甚だ危機にひんしており、その経営を怠れば東京市の飲料水はたちまち欠乏をきたす。多摩川水源地の森林を府または東京市で直接経営することが急務である。」というものでした。

これを受けて、東京府は府が自ら森林を経営することを決め、明治34年（1901年）に多摩川上流の御料林を譲り受けました。これが東京都による森林管理の始まりです。笠取山周辺の森林は、明治45年（1912年）に東京市が山梨県から譲り受けました。

森林の管理

現在、当局ではおよそ22,000ヘクタールの森林を管理しています。これは東京都23区の3分の1程度の面積になります。そして、笠取山周辺の森林は、カラマツを中心とした立派な森林となりました。下の写真は左下の写真と同じ場所から撮ったものです。100年前に全く木がなかったとは思えないほど、豊かな森林が広がっていることがおわかりになると思います。

多くの方々の知恵と努力によって見事によみがえった水源地の森林を、当局では「安全でおいしい水は豊かな森林から」という考えのもと、これからも適切な管理を続けていきます。



現在の笠取山付近

ようこそ水源地ふれあいのみちへ

笠取山や水干へ至るコースは、「水源地ふれあいのみち」として当局が整備した登山コースになっています。山を登るにつれて変化する森林の姿と源流部の清流を楽しむことができ、緑が深まるこれからの季節にはぴったりのコースです。これを機会に、森林の歴史を感じながら多摩川の源流を散策してみたいいかがでしょうか。



水源地ふれあいのみち（水干ゾーン）

## インフォメ 多摩川

多摩川流域の各種団体等の6月から9月頃まで行われる環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

### 美しい多摩川フォーラム

- 調布市環境フェア出展(6月5日)
  - 第3回多摩川一斉水質調査実施(6月6日)
  - 多摩川っ子(第3号)発行(7月上旬)
  - 狛江古代カップ第20回多摩川いかだレース参加(7月18日:狛江市)
  - 多摩川カヤック体験教室開催(7月24日:青梅市)
  - 多摩川1万人の清掃大会参加(8月1日:青梅市)
  - 炭焼き体験と水辺の交流会開催(8月下旬頃)
- (問合せ先) 美しい多摩川フォーラム事務局(青梅信用金庫 地域貢献部内) 担当:宮坂/土方/及川  
 TEL:0428-24-5632 FAX:0428-24-4646  
 Email:forum@tama-river.jp URL:http://tama-river.jp

### がさがさ水辺の移動水族館

#### 春のアユまつり バケツリレー救出作戦~アユ放流体験

- ・6月(予定)時間未定 4~5回予定(小学校2~3回、一般2回)

場所、川崎市多摩区二ヶ領宿河原堰上 水道橋下貸しボートのんきや前 参加費無料  
 、川崎市多摩区上ヶ領宿河原堰上 京王線鉄橋下

- \*堰を上れない稚アユを保護し、バケツで堰の上流へ放流します。上流へ登るアユほど大きく育つと言われています。日程など詳細は下記メールよりお問い合わせ下さい。

#### ○親子自然観察会 魚類等水生生物調査(予定)

- ・6月27日 日曜日 集合 14時 稲田堤河川敷無料駐車場 上河原堰付近(参加無料)
- ・7月11日 日曜日 集合 14時 稲田堤河川敷無料駐車場 上河原堰付近(参加無料)
- ・8月29日 日曜日 集合 14時 稲田堤河川敷無料駐車場 上河原堰付近(参加無料)
- ・9月19日 日曜日 集合 14時 稲田堤河川敷無料駐車場 上河原堰付近(参加無料)
- ・9月26日 日曜日 集合 14時 稲田堤河川敷無料駐車場 上河原堰付近(参加無料)

- \*たも網や投網で捕まえて魚の観察をします。どなたでも自由にご参加頂けますが、参加希望者は必ずメールでご連絡下さい。(協力)川崎河川漁業協同組合、川崎いなおロータリークラブ、川崎市老人クラブ連合会多摩区老連、川崎市遊技場組合、株式会社建設技術研究社環境部

#### 多摩川美化活動 ふれあい移動水族館

- \*どなたでも自由にご参加頂けますが、参加希望者は必ずメールでご連絡下さい。

(協力)川崎河川漁業協同組合環境部、川崎いなおロータリークラブ、川崎市老人クラブ連合会多摩区老連、川崎市遊技場組合

- ・6月6日 日曜日(予定) 集合 10時 二子新地国道246橋の下

#### 足立区環境フェア ふれあい移動水族館

- ・6月19日 土曜日 足立区役所(参加無料)
- ・6月20日 日曜日 足立区役所(参加無料)

- \*多摩川の紹介と荒川に棲む魚たちを移動水族館で学び、ふれあいタッチプールで生き物に触れあう体験ができます。どなたでも自由にご参加頂けますので、直接会場において下さい。

#### 募集 6月7月8月9月10月

- ・出前授業・シンポジウム等 種の多様性と多摩川 地球温暖化と多摩川の水環境などを、紙芝居を用いた学習ができます。(小学生~高齢者 30~2時間程度)
- ・プールdeライフジャケット体験 学校のプールや多摩川でライフジャケットを用いた水辺の安全教室と安全学習ができます。(ライフジャケット子ども100着 大人50着用意あります)
- ・多摩川自然観察学習会 多摩川で魚採りなどを通して自然観察学習会ができます。(安全確保のためライフジャケットを着用しない人の参加はできません)
- ・ふれあい移動水族館(移動水族館で水辺の生き物を学びます。生きた魚にふれあい命の不思議と大切さを学びます)
- \*学校や子供会など団体でお申し込み下さい。学校以外での開催は基本的として親子参加になります。
- \*ふれあい移動水族館は学校や幼稚園の他、環境イベントや自然学習イベントなどで実施できます。
- \*日程や人数など下記メールよりお問い合わせ下さい。(実費のみご負担下さい)

#### 大曽根ピオトープ親子自然観察会

- ・7月4日 日曜日

- \*ふれあい移動水族館と協力関係にあるピオトープで自然観察会を実施します。たも網での魚採りや、投網うち体験、紙粘土を用いたお魚模型作りなど。生き物採取を綾瀬川流域と大曽根ピオトープの親子に学んでもらいます。

- \*多摩川から子ども達が多摩川大使として出かけます。どなたでも自由にご参加頂けますが、参加希望者は必ずメールでご連絡下さい。

(共催)エコロジー夢企画

#### 民家園通り夏祭り ふれあい移動水族館

- ・7月中頃(予定) 小田急線登戸駅・向ヶ丘遊園駅下車3分

- \*どなたでも自由にご参加頂けますので、直接会場において下さい。

#### 荒川水辺の生き物探検隊 荒川で遊ぼう!

- ・7月下旬(予定)

- \*都市河川多摩川と同じ環境の荒川で生き物調べをします。埼玉県水環境課に申し込みが必要です。

## 夏のアユまつり 夏休み多摩川教室 親子ふれあい多摩川で遊ぼう!

・7月25日 日曜日(予定)

\*小田急線・南武線 登戸駅下車8分 世田谷通り水道橋付近

\*夏休み最初の日曜日、多摩川で泳いで飛び込んで、スイカ割りをしてアユの塩焼きを食べ、ボートで遊びます。

\*どなたでも自由にご参加頂けますが、参加希望者は必ずメールでご連絡下さい。最低催行人数5家族。

\*参加費 親子2名3000円 追加 親2000円子ども1000円 ライフジャケットレンタル スイカ・アユ等実費

多摩区サマーフェスティバル ふれあい移動水族館

・7月31日8月1日 土曜日 日曜日(予定)

三沢川 美化活動と親子自然観察会 魚類等水生生物調査

・8月8日 日曜日(予定)

夏休み多摩川教室 多摩川で遊ぼう! 上河原堰付近 多摩区・調布市多摩川子ども交流会

・8月15日 日曜日(予定)

あそ・まなメッセ2010 「いきものたちの環境ワンダーランド」

・8月25日26日 水曜日 木曜日(予定)

川崎市平和館 来て見て触って ふれあい移動水族館

・9月11日 土曜日 参加費無料 申し込み不要 川崎市平和館 川崎市中原区木月住吉町33-1

多摩区菅子どもの森 ふれあい移動水族館

・9月12日 日曜日(予定) 稲田堤駅下車徒歩8分

多摩川親子釣り大会 上河原堰付近 参加費無料 申し込み不要

・10月3日 日曜日(予定)

(問合せ) がさがさ水辺の移動水族館館長 山崎充哲

TEL 044 - 933 - 3220 携帯 090 - 3209 - 1390 メールアドレス mlc54407@nifty.com

## 財団法人 世田谷トラストまちづくり

初夏のバードウォッチング~二子玉川周辺(6月12日・午前9時30分~11時30分 要申込)

ツバメのねぐら入り観察会~東京都水道局砧浄水場付近多摩川河川敷(7月17日・午後5時30分~7時30分 要申込)

野川せせらぎ教室~世田谷区成城四丁目付近の野川(9月12日・午前10時~正午 要申込)

(問合せ)(財)世田谷トラストまちづくり トラストまちづくり課

TEL03 - 6407 - 3311 FAX03 - 6407 - 3319 財団HP <http://www.setagayatr.or.jp/>

## GeoWonder 企画 むさしの化石塾

○野外計画主催 GeoWonder 企画 むさしの化石塾 入塾者 同時募集中 多摩川巡見計画

「岸辺の楽校」多摩川の化石に触れよう

午前スタートの場合は、お弁当持参 持ち物 軍手 発掘道具(ハンマー・タガネなど)

・7月31日: 拝島橋 河原で水遊び・魚採取・化石採集 午後1時30分集合

・8月28日: 福島町: 巣穴化石に学ぼう 午後1時30分集合場所 別途案内

・9月12日: 中央線鉄橋左岸 午後1時30分集合 別途案内

集合時間は原則午後1時30分現地集合

集合場所は参加申し込み者に別途案内致します。 参加費 1,000円(資料代含む)

○室内イベント 「化石の館フォッシル・ラボ」室内化石プレパレーション希望者募集

場所: 武蔵村山市役所前バス停徒歩3分 中央3-20-7

要事前連絡

○むさしの化石塾化石コレクション 申込者限定見学

多摩川で発見されたコウノトリ足跡化石標本や化石コレクションが見学できます!

(申込問合せ) むさしの化石塾事務所 福嶋まで

携帯 090 - 1769 - 8020 FAX 042 - 567 - 1095

Web 申込 E-mail: [geo@extra.ocn.ne.jp](mailto:geo@extra.ocn.ne.jp)

## 多摩川自然観察会

6月20日(土) 多摩川河口右岸と干潟館、川崎大師

京急大師線「小島新田」駅前集合、解散「東門前」駅

1年間に一度は河口に来なくてはとの思いで今年も汽水域の自然をじっくり観察したあと、干潟館を経て川崎大師に向かい、境内に点在する多摩川ゆかりの碑を見て歩きます。

7月31日(土)~8月1日(日) 合宿: 綾滝・不動の滝・佛沢の滝と檜原村郷土資料館

久しぶりに秋川上流を訪ねます。秋川を遡り本宿で右に曲がると北秋川となり、佛沢の滝や綾滝などへの入り口に着きます。

綾滝は、水が岩を伝ってサワサワと落ちてくるのが綾の目のように見るととても美しい滝です。滝への入り口に檜原村郷土資料館(入場無料)があり、檜原の自然と文化と歴史を学ぶことができます。詳細は『緑と清流』6月号に掲載します。合宿は会員とその紹介者のみ参加できます。

8月28日(土)夕方 くにたち郷土文化館と城山古民家、万願寺地先の多摩川

南武線「矢川」駅15時集合、解散20時30分多摩モノレール「万願寺」恒例の“鳴く虫”を聞く会を、松虫や鈴虫のいる万願寺地先の多摩川で行う前に、立川崖線に沿うくにたち郷土文化館と城山古民家(いずれも入場無料)でいにしへの武蔵野へと飛翔しましょう。中央高速道ができる前はこの辺も湧水や遊水池がたくさんあったようです。

(申込問合せ) 多摩川自然観察会 柴田隆行

TEL 042 - 636 - 0902

E-mail: [fbstein@cocoa.plala.or.jp](mailto:fbstein@cocoa.plala.or.jp)

## 財団からのお知らせ 研究助成成果報告書が完成しました

学術研究第38巻7件、一般研究31巻8件の研究助成成果報告書(CD-ROM)が本年3月に完成いたしました。研究の概要を以下にご紹介いたします。報告書は財団にご連絡いただければご提供します。

### 学術研究

No.279 多摩川における生態系多様性の評価：寄生虫を指標とし、地理情報システムを活用した方法の開発



杉山 広 (すぎやま ひろむ)  
国立感染症研究所寄生動物部

共同研究者  
森嶋康之(国立感染症研究所寄生動物部)

多摩川下流の東京都大田区と神奈川県川崎市の12地区で汽水産のカニであるクロベンケイ842匹を捕獲し、258匹(31%)から大平肺吸虫の幼虫(メタセルカリア)を検出した。カニにおける大平肺吸虫の寄生率が最も高かったのは、大田区東六郷地区(寄生率:98%)で、1匹のカニから最高329個のメタセルカリアが検出された。また汽水産の貝であるムシヤドリカワザンショウが1,892個も採集でき、そのうち3個体(0.2%)から大平肺吸虫の幼虫(セルカリア)が検出された。カニにおける大平肺吸虫の寄生率が低い地区では、貝は全く検出できなかった。東六郷地区は国土交通省の「多摩川河川環境管理計画」で「生態系保持空間」に指定され、多様な生物が生息できる環境の保全が図られている。このような生物多様性の確保が図られた地区に、大平肺吸虫という寄生虫が検出されることを、今回の研究で例証した。併せて、大平肺吸虫の分布状況と地理情報データとのオーバーレイ解析を行い、肺吸虫の分布状況に影響を与える環境要因を考察した。

No.280 湧水温、湧出量とシリカ濃度に基づく涵養・湧出機構の推定 東京都日野市の例



松山 洋 (まつやま ひろし)  
首都大学東京 都市環境科学研究科  
地理環境科学専攻 准教授

共同研究者  
成宮博之(朋優学院高等学校)  
中山大地(首都大学東京 都市環境科学研究科)

日野市にある8地点の湧水のうち、2地点では水温の季節変化が大きい。日野市に温泉はなく、水温の季節変化が地中伝導熱で生じることを考えると、これ

ら2地点の湧水は、恒温層より浅いところを流れる地下水によって涵養されていなければならず、降水が速やかに浸透・湧出するはずである。このことを確認するため、降水にほとんど含まれないSiO<sub>2</sub>濃度に着目して湧水の調査・分析を行なった。日野市に最も近いAMeDAS八王子の年降水量(1,572 mm)の約1割を超える連続雨量が観測された事例は2006年9月~2007年10月に4回あり、上述した2地点の湧水では、豪雨後のSiO<sub>2</sub>濃度の平均値は、晴天時(11回)の平均値よりも統計的に有意に小さかった。一方、残り6地点の湧水では、豪雨後と晴天時のSiO<sub>2</sub>濃度の平均値の差は統計的に有意でなく、湧水温の季節変化も小さかった。すなわち、同じ日野市内の湧水であっても涵養・湧出機構が異なる可能性が示唆された。

No.281 多摩川源流域における下水道整備が奥多摩湖の水質問題に及ぼす影響に関する研究



寶 馨 (たから かおる)  
京都大学防災研究所 教授

共同研究者  
牧野育代(東北大学環境保全センター)

公共下水道が完備された多摩川水源地帯の主要河川における水質形成を多変量解析の手法を用いて検討した。その結果、流域の水質形成は土地被覆によっておおよその分類が可能であることがわかった。また、民有地においては窒素物質(TN)と浮遊性物質(SS)の観測値より、森林管理の必要性が示唆された。さらに、浄化センターからの放流水中のTNやリン物質(TP)は、一旦、河川で希釈されるものの、貯水池流入部において増加した。そのことは、貯水池流入部において水質成分の滞積が生じている結果と考えられた。以上をふまえ、主要河川のAGP(藻類生産潜在増殖能力)試験を行った。その結果、奥多摩の水質保全においては、出水時の釣り堀の状況把握と、浄化センターの放流水の動向に着目することが一つの対策として考えられた。

## No.282 多摩川河川水の下水処理水臭の原因としてのアルデヒド系臭気



浦瀬 太郎 (うらせ たろう)  
東京工科大学 応用生物学部 教授

多摩川流域の下水処理場の下水処理水および河川水を対象に、水の臭気を測定し、河川の下水処理水臭の挙動を調査した。45 三点比較式フラスコ法で測定した臭気強度は、下水処理水では処理場による明確な差はなく 83 ~ 373、多摩川の下水処理水のほとんど入らない区間で 6 以下、流水のかなりを下水処理水で占める中流部で 17 ~ 90、呑川で 70 ~ 150 であった。河川での臭気強度は、夏の方が冬よりも高い傾向があった。下水処理水臭は河川において、単純希釈で考えた場合よりも臭気の減少が大きく、臭気の成分が気散あるいは生物分解していると考えられた。下水処理水臭の一部を説明するとされるアセトアルデヒド濃度は、臭気閾値以上であったが、臭気強度とアセトアルデヒド濃度の間に相関はなかった。酸素の空気中から水中への溶け込みの気液間の移動係数に比較して、下水処理水臭の水中から空気中への揮発の気液間の移動係数は 1/27 程度であった。

## No.283 多摩川上流・中流域の河川堆積物と河川水（懸濁態および溶解態）の有害重金属元素分布



加藤 泰浩 (かとう やすひろ)  
東京大学大学院 工学系研究科  
准教授

共同研究者

藤永公一郎 (東京大学工学系研究科)

中村謙太郎 (東京大学工学系研究科)

中村仁美 (産業技術総合研究所)

2008 年 4 月より、多摩川上流・中流の野外調査を行い、残りの試料採取を開始した。野外調査は通算 35 日間行い、丹波川、小菅川、奥多摩湖、日原川、大丹波川の 54 地点から河川堆積物と河川水を採取し、前年度と合わせて 93 地点の試料 (174 試料) を確保した。これらの河川堆積物、河川水試料について ICP-MS および XRF により化学分析を行った。その結果、多摩川上流・中流域の河川堆積物の有害重金属元素 (Cu, Zn, As, Cd, Pb) 含有量は、Cu と Zn は局所的に土壌含有量基準値を超える試料が存在するものの、それ以外の元素の含有量は基準値を大きく下回ること

が明らかとなった。また、河川水の Zn, As も水質基準値を下回り、多摩川上・中流において有害重金属元素による汚染はほとんどないと考えられる。しかし、河川堆積物の有害重金属元素のほとんどは上部大陸地殻平均値 (UCC) より有意に高い濃度を持つという結果が得られた。

## No.284 多摩川河川敷及び流域緑地における草地管理と草地性小動物の生息規定要因の関係把握



勝野 武彦 (かつの たけひこ)  
日本大学 生物資源科学部  
植物資源科学科 教授

共同研究者

葉山嘉一 (日本大学生物資源科学部植物資源科学科 准教授)

大澤啓志 (日本大学生物資源科学部植物資源科学科 専任講師)

黒田貴綱 (日本大学生物資源科学部富士自然教育センター 職員)

本研究では典型的な都市河川である多摩川を対象に、草地性小動物であるネズミ類の種組成と草地状態 (植生・土壌) を検討した。下流域でハツカネズミ、中流域でハツカネズミ、アカネズミ、カヤネズミの生息が確認された。河口部や一部の中流域の地点ではネズミ類の生息が確認されなかった。ハツカネズミとアカネズミの生息分布は中流域で境界が示され、両種の分布は河川敷の環境条件と共に、草地環境の連続性、地域の都市化等、周辺植生や土地利用等にも影響を受けている可能性が推察された。アカネズミの生息分布は河川敷内における植生の被覆と、周辺樹林地との連続性が関与している可能性が考えられ、今後はアカネズミの周年利用、移動能力の把握が研究課題となった。カヤネズミの営巣は中流域以上に限定され、営巣に必要な高茎草本群落の規模と共に、群落を構成する種組成にも影響を受けている可能性が示唆された。なお、既往文献で記録されているハタネズミの生息は確認できず、本種が生息可能な土壌条件や草地環境の変容等、河川敷の生態的な質の低下が懸念された。

## No.285 明治・大正期の別邸敷地選定にみる国分寺崖線の風景文化論的研究



笠原 知子 (かさばら ともこ)  
東京工業大学大学院  
社会理工学研究科社会学専攻 助教

共同研究者

小谷野真由巳  
(東京工業大学大学院 社会理工学研究科社会学専攻)

国分寺崖線という特徴的な環境において醸成されてきた、風景文化の一端を明らかにすべく、崖線上に立地する明治・大正期の別邸に着目した。別邸所有者たちの地景の楽しみ方を読み解くために、本研究では2つのアプローチを用意し、以下の成果を得た。

#### 1. 崖線外部からの別邸敷地の見え

地形図および数値地図、現地調査をもとに、大局的な地形的特徴とその見えを分析した。国分寺崖線は、開析谷が台地に切り込む複雑な凹凸を特徴とするが、別邸敷地の低地からの見えは、尾根・谷の規模に関わらず、崖線の先端部・切れ目になるなど、「図」として認識されやすい傾向があることを明らかにした。

#### 2. 別邸敷地内部における眺め

地形図および敷地図面、現地調査をもとに、局所的な地形的特徴と敷地内部における眺めを分析した。敷地利用は、遷急線以上の台地部に居住施設とやや開けたスペース、遷急線と遷緩線との間に斜面林と散策路、遷緩線以下の低地に池泉や茶室など、と大きく分けられ、地形に合わせて多様な楽しみ方を展開していたことを明らかにした。

### 一般研究

No.181 多摩川流域の畑作農家における生活文化の民俗的変容 生業・食生活・生活用水・年中行事・贈答慣行を中心に



増田 昭子 (ますだ しょうこ)  
立教大学講師 / 川崎市文化財審議会委員

共同研究者

佐藤 誠  
(立教大学大学院文学研究科博士課程後期課程)

中林広一 (立教大学兼任講師)

多摩川・鶴川流域の中山間地における畑作農家の伝統的生活様式の変化について、生業、食生活、年中行事、生活用水を指標として調査を行った。特に、山梨県上野原市西原地区の農家では、生業と食生活において実際に体験することを重視した。ここでは、伝統的農業である粟、黍、稗、シコクピエ、モロコシなどの雑穀類、甲州モロコシ(山梨県在来のトウモロコシ)、イモ類ではサトイモ系3種類、ヤマイモ系3種類、ジャガイモ系8種類、マメ類では大豆4種類、インゲン類ではソソチヨウ十六、黒粒など、野菜類ではハウレン草、フユナ、ノラボーも栽培を継続しており、日常的に食べている。本研究の一環において、会津やジンバブウェで活動するグループ

と提携し、種交換と試食会の研修を行い、雑穀やマメ類のネットワークが成立した。東京都奥多摩町の農家では、伝統的作物というよりも「食べたい物を作る」という原則で作り、季節によっては子息や孫たちも作業をともにしながらうどん作りまで行うという、農と食のあるべき姿がみられた。さまざまに変化する現代において、両農家とも小規模農業とはいえ、中山間地における持続可能な農家の存在を確認した。

### No.182 巨樹・巨木調査と「源流資源マップ」作成



中村 文明 (なかむら ぶんめい)  
多摩川源流研究所 所長

共同研究者

石川重人・石坂慎吾・中村真里・北山郁人

巨樹・巨木調査は、地元の長老や猟師から聞き取り調査し、山の地形や特徴を知ることから開始した。聞き取り調査の中で誰しもが牛ノ寝の不思議な地形に触れた。調査の結果、長い平坦な尾根筋が続くとともに尾根の幅が大きく広々とした空間があることが分かった。聞き取り調査に基づいて、鎮守の森、三頭山、松姫・山沢入り、大マトイ・狩場山、牛ノ寝・権ノ尾、雄滝・カモシカ立ち、フルコンバ・ノメダワの7つのゾーンごとに実踏調査を実施した。また、自然・歴史・文化などの源流資源調査に関しては、聞き取り調査、文献検索、実踏調査の三方向から実施した。この取組を通して、大菩薩峠が源流古道の視点から見ると、交易・交流の十字路に当たること、甲州裏街道として大きな役割を果たしたこと、小菅村民が江戸の昔から小金沢・土室という他の流域まで進出し、山の民・森の民として大活躍をしていたことなど新しい物語が生まれた。

巨樹・巨木調査の総本数 251本  
小菅村の巨樹(幹周り) 5m以上)

1. 山沢入りの大トチ 728 cm
2. 余沢のケヤキ 665 cm
3. 交番前のトチ 615 cm
4. 池ノ平の大トチ 555 cm
5. 鳥小屋沢のシオジ 554 cm
6. 御鷹神社のケヤキ 530 cm
7. 小森神社のスギ 530 cm
8. 大マトイのミズナラ 528 cm
9. 川入のカツラ 515 cm
10. 山沢入りのトチ 504 cm

## No.183 多摩川流域におけるヒメビロウドカミキリ個体群の分布と保全



新里 達也 (にいさと たつや)  
特定非営利活動法人 野生生物調査協会  
副理事長

共同研究者

武田雅志  
(特定非営利活動法人 野生生物調査協会)

多摩川流域における、絶滅危惧昆虫であるヒメビロウドカミキリ個体群の分布の全容を把握するとともにその生活史を明らかにし、本種の保全に関する提案を行なった。

多摩川流域の本種の生息地は本流部中流域5地点が確認された。本種は低茎草本群落に混生するオトコヨモギに強く依存しており、その生息には寄主植物の長期に安定した生育地が必要である。本種の生息地はすべて、河川にかかる橋梁の直下やその周辺などに集中していたが、それらの地点に共通するのは、草刈りにより草が低く管理されている点であった。洪水などによる氾濫の機会が少ない現在の河川環境において、河川敷の定期的な草刈りがその生息地の維持に強く関与していることが示唆された。

利根川や荒川などの他河川、箱根仙石原などの生息地の調査ならびに標本サンプリングを実施するとともに、幼虫期の生態も観察した。これらの観察結果から本種の生態は、他産地でも多摩川とは基本的に変わらないことが明らかになった。また、成虫形態ならびにミトコンドリア COI 遺伝子の解析によれば、少なくとも国内の本種の地域変異は小さく、絶滅産地への再導入についても、地域個体群の純系を育かすような問題は生じないであろうと考えられる。

## No.184 市民参加調査による多摩川における洪水攪乱後の礫河原鳥類の動態についての研究



島田 高廣 (しまだ たかひろ)  
特定非営利活動法人 自然環境アカデミー  
代表理事

共同研究者

野村亮  
(特定非営利活動法人 自然環境アカデミー)

内田哲夫  
(特定非営利活動法人 自然環境アカデミー / 埼玉大学院理工学研究科社会基盤・環境科学領域)

本研究は多摩川にて礫河原環境の環境指標生物とな

るシロチドリ、イカルチドリ、コチドリ、イソシギ、コアジサシを対象種に選定し生息状況の把握のため、市民参加による調査を実施し、今後の市民による水系モニタリング調査システムの構築の可能性と礫河原鳥類の生息概況の把握を目的として実施した。

調査にあたってはマニュアル、調査票、調査対象5種類の鳥類の識別シート、地理情報システム(GIS)を用いて空中写真(2006年秋、2007年秋撮影)から礫河原(自然裸地含む)を抽出し調査地図の作成を行った。実施の際は野鳥観察をしている市民に依頼し、礫河原毎に生息の有無、個体数を記録した。また台風9号前後の空中写真から抽出した礫河原面積を集計し、台風前後の増減を比較した。調査は2008年度に準備及び試行を実施し、2009年度の対象鳥類の繁殖期である6月から7月にかけて、多摩川(0km~61.8km)及び浅川(0km~13.2km)の総延長75.0kmを調査した。その結果、イカルチドリ166個体、コチドリ36個体、イソシギ42個体、コアジサシ117個体が記録された。シロチドリの記録は得られなかった。礫河原面積の判読では、2006年は215.3ha(多摩川192.1ha、浅川23.2ha)、台風9号後の2007年は424.9ha(多摩川389.3ha、浅川35.6ha)を抽出、洪水攪乱により対象種の潜在的な生息環境が約2倍に増加した。また、イカルチドリとコチドリが観察された礫河原面積の関係では、多摩川と浅川の両河川の礫河原集団において、各河川で大面積の礫河原を有意に利用していることが示唆された。本研究により、礫河原鳥類を対象とした水系レベルの市民参加型の河川生態系モニタリング調査システムの構築ができた。今後、本システムを継続的に運用することにより、多摩川水系の礫河原鳥類の動態の把握が可能と考えられる。

## No.185 多摩川流域市民学会の開催



長谷川 博之 (はせがわ ひろゆき)  
多摩川流域市民学会

共同研究者

長島保・鈴木真智子・石田幸彦・遠藤保男・安元順

今回の多摩川流域市民学会は、第2回目にあたり、河口部の川崎において、2008年10月と2009年2月に分けての開催となった。パート1の発表者5名、参加者53名、パート2の発表者16名、参加者61名、のべ発表者21名、参加者114名であった。

テーマは、「河口を語ろう」「おいしいアユ、泳げる川を求めて」であり、多摩川河口ならではの話題も多かったが、学会の趣旨(河口から源流まで、流域も)

から、他の流域（支川）や都市河川全域からの報告もあった。

前回第1回大会は、1日だけの実施で、口頭発表とポスターセッション中心の学会であったが、今回は、2日間の（分離）開催で、しかも半日のフィールドワーク（屋形舟からの河口観察会）も行われたことが、特徴的であった。また、市民によって長年撮り続けられてきた貴重な写真展も同時開催され、学会の間には、ミニコンサート（草笛演奏会）も行われ、市民が楽しめる要素も加わった。

#### No.186 交響詩「多摩川の流れば絶えずして138」のコンサート活動を通して環境の啓発活動



仙道 作三（せんどう さくぞう）  
作曲家

地球環境オペラコンサート、仙道作三・作詩・作曲、水の交響詩第2番「多摩川の流れば絶えずして138」映像とオペラ生演奏のコラボレーションと題し、2008年7月15日、秋川キララホールと、9月8日、奥多摩町氷川中学校体育館の、2回上演した。

プログラムの第1部は、環境学習の小講演で作曲家がなぜ地球環境に水の交響詩を作詩作曲したかを語り、ゲストに地元の漁師を迎え、昔の魚や現代の魚の話を持って貰った。

第2部は、多摩川の上流から河口までの全流域の写真80枚を映写し、交響詩の全8楽章、1楽章「奥多摩湖」2楽章「御岳渓谷」3楽章「玉川上水」4楽章「秋川渓谷」5楽章「多摩大橋付近の河原」6楽章「二子玉川兵庫島」7楽章「多摩川台公園」8楽章「多摩川河口」を、ソプラノとヴァイオリンとピアノで演奏し、中学生とPTAコーラスが、地元の楽章をプロの音楽家に混じって歌い、芸術を体感して地球環境を考えた。

#### No.187 玉川碑関係史料及び論考集



稲葉 和也（いなば かずや）  
万葉名歌 玉川碑に集う会 会員

玉川碑は江戸時代の文化年間、狛江の猪方村の名主宅に寄寓していた土浦藩の浪人、平井有三が松平定

信に書を所望し、万葉集の東歌を刻んだ歌碑でしたが、その後流失してしまい判らなくなっていました。しかし大正11年その損本が桑名で発見され、国立第一銀行頭取で定信を崇拝していた渋沢栄一や村人の努力によって再建されました。

建立されてから再建に至る間の史料を集め、後世に伝えることがこの研究の意図ですが、すでに史料の存在が判っておりました世田谷区立郷土資料館と渋沢史料館で基本的な史料は整いました。また、再建された後に歌碑と土地が寄進された伊豆美神社には、桑名で発見された玉川碑の損本と渋沢の書による碑陰記が所蔵されており、今回掲載させていただけました。玉川碑の損本は国会図書館と東北大学の図書館にもありますが、佐藤の跋文が付くのは伊豆美神社のものだけです。狛江村の村長であった石井扇吉は渋沢と繁く音信を交わしていましたが、直筆の手紙を掲載できました。このようにこの史料集の刊行を機に、新しい史料が加えられたことと、平井と渋沢についての論考をいただきましたことは大きな成果でした。

#### No.188 多摩川下流都市における谷戸の実際～生態学的現状と資源的展望～



長谷川 友紀（はせがわ ゆうき）  
東京都市大学付属高等学校 学生

多摩川下流都市に存在する谷戸の基盤的研究である。斜面林の毎木調査・水域の水質調査・底生生物調査・大型淡水動物調査・民俗学的生態調査をはじめとする各種調査を行ったうえで、今後の展望や谷戸の科学的考察を試みた。その結果、多摩川下流都市における谷戸の実際のみならず、他の地域の谷戸に関しても普遍的な理論を導き出すことができ、学際的な分野での科学的考証が進んだ。また、谷戸から新しい環境保全対策の一環として有効である「民俗生態学」が本研究の過程において考案された。初期雨裂を筆頭とする地形学理論や外環・エイトライナーに対する環境影響評価も新たに提起した。

## [ 2010 年度研究助成選考結果 ]

去る3月8日当財団の第52回選考委員会において、新規応募39件に対して下記11件が採択されました。

また、昨年からの継続研究7件はいずれも助成が認められました。2010年度は併せて18件を助成いたします。

## 〔 学術研究 〕

研 究 課 題	代表研究者	所 属
多摩川流域における親水活動を介した健康関連微生物の水系感染リスクの評価	原本 英司	山梨大学 大学院医学工学総合研究部附属 国際流域環境研究センター 助教
多摩川全域の河川堆積物と河川水の有害重金属元素マッピング	加藤 泰浩	東京大学大学院工学系研究科システム創生学専攻 准教授
安定同位体比及び土壌微量成分分析を用いた河床低下に伴う土丹露出・流出による河川生態系への影響についての研究	浅枝 隆	埼玉大学大学院理工学研究科環境科学領域 教授
多摩川水系における底生動物分布の長期的変化	加賀谷 隆	東京大学大学院農学生命科学研究科 助教
多摩川上流に位置する奥多摩湖の富栄養化に及ぼす釣りレジャーの影響に関する調査研究	牧野 育代	東北大学環境保全センター 助教
ドングリを使った多摩川流域の環境モニタリングとスペシメン・ライブラリ	楊 宗興	東京農工大学大学院 共生科学技術研究院 教授

## 〔 一般研究 〕

研 究 課 題	代表研究者	所 属
第3回多摩川流域市民学会の開催	長谷川博之	東京都立日野高校 生物科教諭
多摩川流域の地下水研究を総括して継承、発展させるための研究	宇田川隆男	みずとみどり研究会
多摩川中流域の自然を活用した自然体験学習の支援ならびにその教材づくり	有馬佳代子	どんぐりクラブ(日野市環境学習サポートクラブ)
西暦2010年の多摩川を記録する運動	横山十四男	特定非営利活動法人多摩川センター
多摩川流域(東京都域)における絶滅危惧種クマタカの生態に関する調査研究	山口 孝	多摩クマタカ生息調査チーム

本号より環境紙芝居 15 のおはなし を連載します。

ごあいさつ



絵：大田黒摩利

「いきものつながり - 環境紙芝居 15 のおはなし -」は、私たちの子どもたちを自然の中にいざない、緑のなかで、水辺で、思いっきり遊ばせ、テレビより、ゲームより面白い不思議な自然の営みをしっかり見せて、人間も自然の一員であるということ、幼児のうちに原体験の記憶の中にしっかり植えつけ、真の生きる力をつけたいがため、子どもたちのリーダーが使うテキストとして制作したものです。自然に合った、季節に合った一枚を持ち出して、子どもたちと一緒に自然のなかへと繰り出し、自然のお話をしてくださることを願ってやみません。

「いきものつながり」制作プロジェクト 代表 下重 喜代

当財団の概要 (2010年6月1日現在)

設立 1974年8月28日
特定公益増進法人認定 1974年9月24日
主務官庁 経済産業省
基本財産 974百万円
財源 基本財産等の運用収入並びに寄付金
事業内容 研究助成事業
1 研究助成 総助成採用件数 1,076件
総助成金額 1,272百万円
2 学習支援 副読本制作配布 239千部
印刷刊行物 研究助成成果報告書学術編
研究助成成果報告書一般編
財団だより(季刊) 3,600部
環境副読本(毎年) 13,200部
助成研究選考委員会委員長 高橋 裕
東京大学名誉教授(河川工学専攻)

役員・評議員

[会長] 西本 定保 東京急行電鉄株式会社 常任顧問
[理事] 新井 喜美夫 当財団 元理事長/前選考委員
植木 正威 東急不動産株式会社 取締役会長
大須賀 頼彦 小田急電鉄株式会社 取締役社長
小川 春男 亜細亜大学 学長
加藤 典 京王電鉄株式会社 取締役社長
小長 啓一 AOCホールディングス株式会社 参与
小沼 通二 東京都市(武蔵工業)大学 名誉教授

櫻井 孝 第一生命保険相互会社 相談役
清水 仁 東京急行電鉄株式会社 取締役相談役
中村 英夫 東京都市大学 学長
中村 良夫 東京工業大学 名誉教授/前選考委員
石渡 恒夫 京浜急行電鉄株式会社 取締役社長
涌井 史郎 東京都市大学 教授/前選考委員
[常務理事] 馬淵 広三郎 当財団 事務局長
[監事] 中川 幸次 財団法人 世界平和研究所 副会長
岩田 哲夫 東京急行電鉄株式会社 常勤監査役
[評議員] 井原 國芳 東京急行電鉄株式会社 顧問
海老原 大樹 東京都市大学等々力中学校・高等学校 校長
上條 清文 東京急行電鉄株式会社 取締役会長
越村 敏昭 東京急行電鉄株式会社 取締役社長
後藤 ヨシ子 横浜商工会議所 副会頭
志村 安弘 株式会社 東芝 執行役常務
鈴木 學 株式会社 日立製作所 執行役常務
高橋 裕 東京大学 名誉教授/選考委員長
鳥井 信吾 サントリー株式会社 取締役副社長
西岡 浩史 川崎商工会議所 会頭
福原 義春 株式会社 資生堂 名誉会長
水田 寛和 株式会社 東急百貨店 取締役相談役
山口 裕 啓 学校法人 五島育英会 理事長
[選考委員] 高橋 裕 東京大学 名誉教授
小倉 紀雄 東京農工大学 名誉教授
小堀 洋美 東京都市業大学 環境情報学部 教授
齋藤 潮 東京工業大学大学院 教授
新藤 静夫 千葉大学 名誉教授
鈴木 信夫 千葉大学大学院 医学研究院 教授
田畑 貞寿 財団法人 日本自然保護協会 理事長
増井 光子 よこはま動物園 園長
宮川 公男 財団法人 統計研究会 理事長

発行日 平成22年6月1日

編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団

〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14

(渋谷地下鉄ビル8F)

TEL (03)3400-9142

FAX (03)3400-9141

ホームページ http://home.q07.itscom.net/tokyuenv/

